

令和6年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費  
6項 社会教育費  
2目 図書館費

図書館（電話：0857-26-8155）  
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
生きる力を育むとっとり学校図書館活用教育普及事業	717	698	19				717	

トータルコスト 7,760千円（前年度 7,715千円）〔正職員：0.9人〕

主な業務内容 高校生の未来につながる読書推進、学校図書館活用教育普及講座、学校図書館職員研修、その他管理事務

事業内容の説明

1 事業の目的、概要

就学前から高校まで一貫した学校図書館活用教育を目指す「とっとり学校図書館活用教育推進ビジョン」（以下「ビジョン」という。）を基に作成した小学校・中学校・高等学校の年間計画モデルとあわせて、県内へのビジョンの普及に努める。

また、学習指導要領とGIGAスクール構想に対応した学校図書館の活用をより一層推進するため、学校図書館関係職員の能力向上に資する研修を実施する。

2 主な事業内容

（単位：千円）

区分	内容	予算額
学校図書館活用教育普及講座	ビジョンを基に学校図書館活用教育を普及・推進するため、学校図書館関係者のニーズの高いテーマで研修を開催する。	327
学校司書のためのICTスキルアップ講座	小・中・義務教育学校・高校・特別支援学校に勤務する学校司書のICT活用スキルを向上させる研修を開催する。	84
学校図書館司書研修会	昨今の教育的課題を踏まえた学校図書館の利活用の推進を目指し、県内高等学校・特別支援学校図書館関係者だけでなく、広く教職員も対象にした研修を実施する。	158
学校図書館司書実務研修会	県内高等学校司書、特別支援学校司書を対象に、学校図書館の運営や学校司書の年間業務について先輩司書主任から学ぶ年間2回の研修会を実施する。	54
全国大会鳥取県予選高校生ビブリオバトル大会	全国高等学校ビブリオバトル（※）大会の県予選として、代表者1名を選考する大会を開催する。 ※ビブリオバトル：本の魅力を紹介し合い、もっとも読みたいと思う本を投票で決める書評ゲームのこと	61
学校図書館支援員派遣・訪問事業	市町村立図書館、教育委員会、県立学校等の要望に応じて、県立図書館職員が各自治体や学校へ出向いて研修を実施する。	33
合計		717

3 事業目標・取組状況・改善点

<事業目標>

教育課程に寄与する学校図書館を目標に、就学前から高校まで一貫した学校図書館活用教育を目指すビジョンや新学習指導要領における学校図書館の役割の普及啓発を行う。

<取組状況>

- 学校図書館活用教育普及講座（令和5年度）総参加者138名
- 学校司書のためのICTスキルアップ講座（東中西部3会場）（令和5年度）総参加者119名
- 学校司書実務研修会（令和5年度）総参加者33名

<改善点>

学校図書館関係者だけでなく、広く教職員の参加を呼び掛けていく必要がある。

令和6年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費  
6項 社会教育費  
2目 図書館費

図書館（電話：0857-26-8155）  
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
デジタル化時代の知の拠点づくり事業	25,433	25,415	18				25,433	

トータルコスト 30,911千円（前年度 30,873千円） [正職員：0.7人]

主な業務内容 資料のデジタル化の推進、デジタルアーカイブシステム及び資料デジタル化の効果の広報、デジタルアーカイブシステムの運用・保守

事業内容の説明

1 事業の目的、概要

令和3年3月に公開したデジタルアーカイブシステム「とっとりデジタルコレクション」に加え、令和5年度から新たに導入した電子書籍サービスをより全県的に普及させることで新たな利用者を開拓し、非来館者を含めた県民へのサービス充実を図る。  
また、当館が所蔵する郷土資料のデジタル化を進め、資料利用の利便性を向上させるとともに、貴重な財産を後世へ確実に継承する体制を整えるため、県及び市町村の文化財・観光等の担当者を対象としたデジタル化に関する知識や技術を習得する研修会を行い、デジタル化に長けた人材を育成する。

2 主な事業内容

(単位：千円)

細事業名	内容	予算額
「鳥取県電子図書館」普及キャラバン	「とっとりデジタルコレクション」及び電子書籍サービスを普及し、新規利用者を開拓するため、主に若年層や非来館者に向けた事業を実施する。	279
資料デジタル化研修	市町村の文化財・観光等の担当者向けに資料の撮影方法等の研修を実施する。	530
資料デジタル化の推進	所蔵している郷土資料のデジタル化を進める。	2,210
スキルアップのための研修及び視察	デジタル化に関する資格取得に関する研修受講経費及び先進地視察に係る旅費	226
「とっとりデジタルコレクション」の運用・保守	「とっとりデジタルコレクション」システム賃貸借経費等	22,188
合計		25,433

3 事業目標・取組状況・改善点

<事業目標>

地域の歴史や文化に関する資料を容易に利用できる環境を整え次世代に伝え残していくため、図書館の貴重な資料のデジタル化を推進するとともに、望ましいデジタルアーカイブシステムを構築する。

また、令和5年度から新たに導入した電子書籍サービスを全県的に普及し、非接触・非来館型サービスの向上及び読書バリアフリーサービスの充実に寄与する。

<取組状況・改善点>

○平成15年度～17年度：絵図のデジタル化

利用希望の多かった38種、89点の絵図を対象に所蔵絵図のデジタル化に取り組み、絵図の画像をホームページで公開。

○平成29年度：「総合的なデジタル化計画」の作成、LAN環境の整備、職員育成のための研修派遣を実施。

○平成30年度～令和2年度：デジタル化予定資料の中から優先順位を考慮し、書画等のデジタル化を実施。

○令和2年度「とっとりデジタルコレクション」を公開し、シンポジウムを開催。

○令和3年3月の公開以降、利用促進を図るため、関係機関向けや一般向けの講座を開催。

○令和3年9月：ジャパンサーチ（※）及び国立国会図書館サーチとの連携を開始。

○令和4年9月～令和6年3月：図書館職員向けに「とっとりデジタルコレクション」公開資料のくずし字講座を実施。

○令和5年12月：電子書籍サービスの運用を開始。

※ジャパンサーチ：国内の文化施設等が所蔵する書籍、文化財、メディア芸術などのコンテンツをまとめて検索・閲覧できるシステムのこと。

令和6年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費  
6項 社会教育費  
2目 図書館費

図書館（電話：0857-26-8155）

（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
仕事とくらしに役立つ図書館推進事業	7,806	8,460	△654				7,806	

トータルコスト	38,324千円（前年度 45,106千円）〔正職員：3.9人〕							
主な業務内容	高齢者・健康情報・法律情報等のサービス事業、子育て支援等、新規事業開拓、図書館活用普及活動促進他対外連絡調整、図書館で夢を実現しました大賞の実施、ビジネス支援関係事業							

事業内容の説明

1 事業の目的、概要

地域の情報拠点として、仕事とくらしに関わる県民と地域の課題解決に向け必要な情報を提供するなど、一層の資料充実や機能向上を図る。

- (1) 障がい者や高齢者等、図書館利用や情報の獲得に困難のある方々に対するサービスをより一層充実するとともに、「鳥取県視覚障がい者等の整備の推進に関する計画」（以下「鳥取県読書バリアフリー計画」という。）の周知を図り、誰もが利用しやすい図書館の環境整備を進める。
- (2) ライフステージの様々な場面で必要となる資料を収集し、県民の幅広いニーズに対応する。
- (3) 子どもの読書活動推進を図るため、公共図書館職員、学校関係職員、幼稚園教諭、保育士等への研修や、支援を行う。
- (4) 仕事に役立つ情報を提供するとともに、地域づくりに取り組む団体等と連携しながら、地域経済の活性化と地域の自立に貢献する。
- (5) 経済的に困窮する家庭や、ひとり親家庭等のサポートに必要な家庭の子どもたちに、図書館が居場所であることを周知する。

2 主な事業内容

（単位：千円）

区分	内容	予算額
読書バリアフリー推進・普及のための図書館サービス事業	鳥取県読書バリアフリー計画に基づき、視覚障がい者等に対するサービス提供のための読書環境の整備を推進するとともに、関係機関との協力体制を強化し、県内における障がい者サービスの拡充に努める。	712
図書館を活用した「あんしん健康ライフ」応援事業	高齢者を主な対象とし、認知症になっても安心して通える図書館となるための環境整備、デジタル機器を利用した情報収集講座を実施する。	534
図書館で「すくすく子育て」応援事業	誰にでもやさしい子育ての環境づくりを応援するために関係部局と連携し、託児サービスの実施や「読みメン」（※）の普及を図る。 ※読みメン：男性も子育てに参加することを促す観点から、男性（お父さんやお爺さん）の読み聞かせを推奨する活動。	480
豊かな心をはぐくむ子どもの読書応援事業	子どもの読書活動推進を図るため、市町村立図書館職員、学校図書館関係者等、子どもと子どもの本に関わる人々が、継続的に研修できる機会を提供し、県内各図書館の児童サービスのさらなる充実を目指す。	240
地域を元気にするビジネス支援事業	公共図書館のビジネス支援機能の浸透を図るため、セミナーの開催や、他団体が主催する研修会等の機会を活用するなど、幅広い層へのビジネス支援サービスの定着を目指す。	859
サポートの必要な家庭応援・居場所としての図書館活用推進	支援機関や県内市町村立図書館との連携を進めるとともに、サポートの必要な家庭を図書館の「資料」や「場」の活用を通じて支援する。	97
商用データベースの提供	利用者の高度化・多様化する情報要求に応えるため、市町村立図書館と連携し、商用データベースを導入する。	3,848
スキルアップのための専門分野研修の受講	文部科学省、国立国会図書館、日本図書館協会、その他各種団体の開催する研修へ積極的に参加し、図書館職員としての資質向上を目指す。	1,036
合計		7,806

3 事業目標・取組状況・改善点

<事業目標>

県民に役立つ地域に貢献する図書館を目指し、仕事とくらしに役立つ図書館、人の成長・学びを支える図書館、鳥取県の文化を育み世界に発信する図書館、知の拠点としての図書館としての機能を充実する。

<取組状況・改善点>

- 平成28年度から託児サービス「託児で来ぶらり」を実施している。
- 平成29年度から「サポートの必要な家庭」応援事業を開始し、市町村立図書館や支援機関、学校図書館等と連携を進めており、平成30年度から「図書館＝居場所」キャンペーンを継続して実施している。
- 平成30年度から開催している「子どもと本をつなぐ講座」や市町村立図書館実務担当者連絡会の実施により、市町村立図書館の職員、学校図書館関係職員、幼児教育関係者の資質向上と、子ども読書支援者の連携に繋がっている。
- 令和3年度に「鳥取県読書バリアフリー推進に係る関係者協議会」を設置し、毎年意見交換を行っている。
- 令和3年度から高齢者を対象とした情報収集及び健康増進講座を開催している。
- 平成16年度から「ビジネス支援サービス」を開始し、令和4年度には「第5回図書館で夢を実現しました大賞」で事例を募集し表彰した。

## 令和6年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費  
6項 社会教育費  
2目 図書館費

図書館（電話：0857-26-8155）  
(単位：千円)

事業名	本年度	前年度	比較	財 源 内 訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
郷土情報発信事業	7,739	2,346	5,393			60 <財産収入>	7,679	
トータルコスト	32,596千円（前年度 27,052千円） [正職員：2.8人、会計年度任用職員：1人]							
主な業務内容	ふるさとの歴史再発見事業（資料展、郷土文化講演会等）、地域資料データベース等サービス事業、資料調査・研究・収集等、郷土資料室でのサービス提供、その他管理事務							

### 事業内容の説明

#### 1 事業の目的、概要

郷土資料を収集・保存するとともに、資料の利用促進を図る。紙媒体の資料の収集に加え、地元新聞記事検索データベースの導入や郷土関係資料のデジタル化を推進するなど、後世に郷土資料を継承するための保存・活用を進める。

また、鳥取県出身の文学者及び鳥取県の自然や文化について興味、関心を喚起する資料展や講演会を開催するとともに、県内の関係機関や市町村立図書館、学校図書館と連携し、広く県民へ情報を発信する。

#### 2 主な事業内容

(単位：千円)

区分	内容	予算額
ふるさとの歴史再発見事業	鳥取県に関する資料・情報を収集し、県民の興味・関心を喚起するための事業を開催する。	466
郷土文学者情報発信事業	鳥取の文学に触れる機会を提供する講座を開催する。	80
「文字・活字文化の日」記念事業	「ブックインとっとり」事業（主催：ブックインとっとり実行委員会）とタイアップし、「文字・活字文化の日」を記念し、地方出版文化功労賞受賞者による講演会を開催する。	73
地域資料データベース等サービス事業	過去の出来事を調査する際に有用な地元新聞記事を検索・閲覧可能な環境を整備するため、地元新聞記事検索サービス及びマイクロフィルム閲覧サービスを提供するとともに、マイクロフィルムのリーダープリンタを整備する。	7,120
合計		7,739

#### 3 事業目標・取組状況・改善点

##### <事業目標>

- 郷土資料の収集を進めるとともに、資料の利用促進を図る。後世に郷土資料を継承するための保存に努め、情報発信等により活用を進める。
- 鳥取県出身の文学者及び鳥取県の自然や文化について興味、関心を喚起する資料展や講演会を開催し、広く県民へ情報を発信する。
- 「文字・活字文化」の振興に寄与する。

##### <取組状況・改善点>

- 特別資料展「鳥取と新聞」を開催し、新聞が鳥取県内で発刊されて150年が経つことに合わせ、地元新聞社と連携しその歴史や役割を紹介した。
- 郷土文化講演会では、阪本四方太を取り上げ、とっとり県民の日の行事として、郷土人物について理解を深める機会を創出した。
- 鳥取県を発信する企画展示など、社会的な課題を捉えて実施した。
- 鳥取大学など公的機関、県民活動による団体との連携により、地域に関わる歴史、文化事象を発信した。
- 現在30テーマある調べ方案内「郷土学習ガイド」の内容改訂を行い、最新情報を加えて公開した。学校や図書館利用者のほか、小学生の夏休みの自由研究等で利用されている。

令和6年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費  
6項 社会教育費  
2目 図書館費

図書館（電話：0857-26-8155）  
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
市町村図書館等協力支援事業	9,924	9,924	0				9,924	
トータルコスト	35,381千円（前年度 35,165千円） [正職員：2.5人、会計年度任用職員：2人]							
主な業務内容	ジュニア司書養成研修、協力図書館の貸出・配送、リクエスト図書館の配送、市町村・高等学校・特別支援学校図書館等巡回相談、図書館職員研修、その他管理事務							

事業内容の説明

1 事業の目的、概要

県民への情報保障のため、全県の図書館や関係機関に対して迅速に資料・情報の提供支援を行う等、県内図書館ネットワークの要としての役割を担うとともに、地域の課題やニーズに対応するために県内図書館職員の研修を実施し、全県の図書館サービスの向上を図る。

また、図書館の来館者増に向けて、利用促進キャンペーンを県内市町村立図書館等と協働で実施する。

2 主な事業内容

(単位：千円)

区分	内容	予算額
図書館へ行こう！キャンペーン	図書館の来館者増に向けて、利用促進キャンペーンを県内市町村立図書館等と協働で実施する。	1,010
図書館業務専門講座	社会の急激な変化に対応して多様化・高度化している県民の図書館に対するニーズに応じていくため、市町村立図書館職員の資質向上を目的とした研修を年4回実施する。	389
県内図書館の課題解決に向けた支援	県立図書館職員が市町村立図書館を訪問し、相談・要望への対応や情報交換等を行い、業務改善を図る。また、県立図書館職員が講師として市町村立図書館等に出向き、希望するテーマに沿った研修を実施する。	284
県立図書館資料等の配送・回収事業	県内の図書館、病院図書室、試験研究機関等、資料を必要とする県民・機関へ迅速な配送を実施する。	8,241
合計		9,924

3 事業目標・取組状況・改善点

<事業目標>

- 県内市町村立図書館や県立図書館において、コロナ禍の影響により減少した利用者数が回復していないため、図書館の資料や場としての利用の機運を高めるための取組を行う。
- 日頃から県内の市町村立図書館の動向や現状を把握し、図書館間で最新情報を共有するとともに、職員のスキルアップのための研修の機会を提供する。
- 県民が県内どこからでも必要な資料を迅速に利用できるよう搬送システムを維持する。

<取組状況・改善点>

- 図書館業務専門講座については、社会情勢の変化や県内図書館職員のニーズに応じて、年4回講座を実施している。市町村立図書館の職員の情報交換の場にもなっている。
- 訪問相談については、市町村立図書館、高等学校・特別支援学校図書館、大学図書館、県立病院図書室、試験研究機関、協力機関へ年間2回以上訪問することを目標に実施している。
- 研修講師の派遣については、資料相談の研修等、各館の要望に合わせて実施している。市町村立図書館の職員と講義を分担するなど、市町村立図書館と協力し実施していく。
- 県立図書館資料等の配送・回収事業については、県内各館からのリクエスト本を2日以内に届ける宅配システムと、隔週で巡回し、大量の資料や展示物の配送及び回収を行う搬送システムを運用している。

令和6年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費  
6項 社会教育費  
2目 図書館費

図書館（電話：0857-26-8155）  
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
図書館国際交流事業	4,743	4,952	△209				4,743	
トータルコスト	16,897千円（前年度 16,938千円）〔正職員：0.8人、会計年度任用職員：2人〕							
主な業務内容	環日本海諸国の図書館との交流（図書交換等）、国際交流ライブラリー講演会等開催、運営企画その他管理事務							

事業内容の説明

1 事業の目的、概要

鳥取県が進めている環日本海諸国との交流や、さらなるグローバル化に伴う幅広い国際交流や国際理解の促進を支援するために、環日本海交流室・国際交流ライブラリーの機能を生かし、広く海外情報を収集・提供する。また、英語教育や国際理解教育の推進等、世界で活躍する人材育成につながる情報を収集・提供する。

2 主な事業内容

（単位：千円）

区分	内容	予算額
図書交換事業	図書交換等に関する協定を結んでいる環日本海諸国と図書交換を行い、交流を深める。	971
海外に関する資料の収集整理・提供の促進	環日本海諸国をはじめとする海外に関する資料の収集・整理に努め、県民及び県内在住外国人への資料・情報提供の充実を図る。	3,351
海外に関する情報発信	国際交流ライブラリー講演会を開催する。	348
語学・歴史・文化等学習支援事業	多文化を知るイベントを開催し、県民の異文化理解を支援する。	73
環日本海交流室担当職員の配置	環日本海交流室室長を配置する。	—
	合計	4,743

3 事業目標・取組状況・改善点

<事業目標>

県の重要施策である環日本海諸国との交流を支援・促進するため、環日本海諸国の原書やその地域について記述された日本語図書の収集・提供を行うとともに、様々な事業を通じて、環日本海諸国との交流を促進する。

また、英語教育や国際理解教育を推進し、多文化理解や世界で活躍する人材育成につながるよう、積極的な情報収集とサービスの提供を行う。

<取組状況・改善点>

- 平成29年10月：鳥取県立図書館職員（4名）が河北省図書館を視察訪問、協定修正の協議を行った。
- 令和3年12月：モンゴル中央県D. ナツァグドルジ記念公共図書館と図書交換に関する協定を締結した。
- 国際交流ライブラリー講演会の開催を主会場のみならず、サテライト会場にも配信し、県民が近くの会場で視聴できるようにした。また、自宅等でも視聴できるようオンライン配信も行った。
- 令和3年7月には、「多文化を知るイベント『世界は広いぞ！知ろう！世界のあれこれ』」と題して、子どもも大人も日本人も外国人も一緒に、いろんな国の「あいさつ」「文字」「ことば」に触れるイベントを行った。また、令和4年8月には、このイベントを市町村立図書館で開催した。
- 幼少期から英語に親しんでもらえるよう英語多読用図書を整備しており、専用の書架を設置し、図書を増加した。また、1階閲覧室や児童図書コーナーでも展示し、利用を促進した。
- 令和5年7月には、小中学校課と連携し、「英語に親しむワークショップ」を開催した。

令和6年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費  
6項 社会教育費  
2目 図書館費

図書館（電話：0857-26-8155）  
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
図書館運営費	216,210	461,842	△245,632		<500> 1,000	<基金繰入金 5,246 雑入370> 5,616	209,594	県費負担 210,094
トータルコスト	345,840千円（前年度 590,384千円）〔正職員：12.8人、会計年度任用職員：10人〕							
主な業務内容	館内でのサービス提供、施設・設備維持管理、資料購入、整備、その他管理事務							

事業内容の説明

【「鳥取県子ども未来基金」充当事業】

1 事業の目的、概要

県立図書館の管理運営、資料整備を行う。  
また、外部委員から図書館運営について意見をもらう図書館協議会を開催する。

2 主な事業内容

（単位：千円）

区分	内容	予算額
図書館管理運営費	図書館協議会の開催 図書館業務の管理運営等 図書館システムの管理運営等 施設設備の維持管理等	115,288
資料購入整理費	図書館資料整備 逐次刊行物資料整備 資料整理経費等	99,598
受変電設備改修工事	受変電設備の改修（実施設計）	1,324
	合計	216,210

3 事業目標・取組状況・改善点

<事業目標>

多様化、高度化する県民の要望に的確に対応するため、あらゆる分野の最新資料、専門的な資料、郷土資料、市町村や学校を支援する資料等、図書資料の充実を図る。

<取組状況・改善点>

- あらゆるニーズに対応するための資料等を充実させることで、県民に幅広く利用されている。
- 図書館がビジネス支援をはじめ、資料相談の場として活用されている。
- 多様化、高度化する県民の要求に応えるために、専門家の助言を参考にしながら、最新の資料を幅広く収集する必要がある。また、郷土資料は、出版情報に目配りし、網羅的に収集に努める必要がある。

(注) 起債欄の< >書きは交付税措置額を除いた額である。  
県費負担額は、起債欄の< >書きの金額に一般財源の金額を加算した額である。